

物作りでの注意

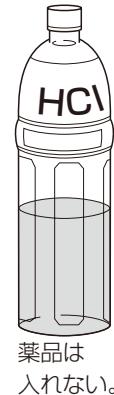
事故防止のために

物作りでは、材料の取り扱いとともに、道具の使用にも気をつけなければならない。材料としてよく使われるのが、ペットボトルやパックケースである。道具としてよく使われるのがはさみやカッターナイフ・千枚通し・グルーガンである。それぞれの使用上の注意点を知っておくことが大切である。

1 ペットボトル・パックケースを使うときの注意点

ペットボトルやパックケースは、透明であるため観察しやすいこと、割れにくく耐圧性がガラスよりも優れていること、薄いため加工しやすいことなどの利点があるため、飼育・栽培の容器に利用したり、実験器具として使ったり、おもちゃづくりの材料として使ったりしている。しかし、使い方を誤ると危険性があるので注意する。

- ペットボトルには熱湯を入れない。
⇒入れてよい湯の温度は、炭酸飲料が入っていた耐圧ペットボトルでは50℃、清涼飲料水が入っていた耐熱ペットボトルで85℃、一般的のペットボトルで50℃が限界である。
- ペットボトルには薬品を絶対に入れない。
⇒近頃、ペットボトルに入った飲み物が多い。「ペットボトル」といえば、飲み物が入っていると思われている。児童が誤って飲むおそれがあるので、薬品は絶対に入れない。
- 加工しているとき、けがをしないようにする。
⇒ペットボトルやパックケースの素材の厚さは薄いので、加工しているときに手を切らないように注意する。穴を開けたりするときは、加工に使う道具（千枚通し、きりなど）で手をついたりしないように注意する。



2 はさみ、カッターナイフ、千枚通し、グルーガンなどの道具を使うときの注意点

おもちゃづくりなどの物作りに使う道具には、刃物などの「切れる」道具が多い。けがをしないように気をつけて使うように指導する。

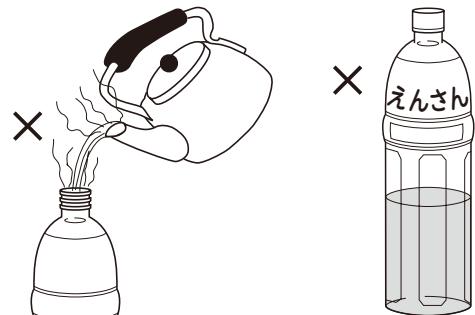
- 刃物の危険性をしっかり知らせる。
- 道具の使い方、持ち方、切り方の指導は必ず行う。
- はさみやカッターナイフは、よく切れるものを使う。
⇒切れないとより強い力を使うので、かえって危険性が高まる。
- カッターナイフの刃を出したまま持って歩いたり、ふざけて振り回したりしない。
- はさみやカッターナイフを手に持ったまま、他のことをしない。
- ポケットに入れない。
- 使うときは、刃を動かさずほうに自分の手や指をもっていないか。また、友達がいないことを確かめる。
- 千枚通しは、台の上に固定して使う。
- 千枚通しを使う時は、新聞紙を敷いて使うなどして、机を傷つけないように注意する。
- グルーガンは、先端部が高温になるので絶対触らない。
⇒やけど防止のため、手袋をつけて作業するとよい。
⇒電源を入れたままで、先を下に向いていると、溶けたスティック(樹脂)が垂れる場合があるので気をつける。
⇒使用後は、必ずコードをコンセントから抜くようにする。
- スティックが溶けてできた接着剤は、すぐに触らない。
⇒溶けた接着剤が皮膚に付いたら水などですぐに冷やす。
⇒症状がひどい場合は病院へ連れて行く。
- 学習が終了した後、貸し出したときの数が返っているかを確認する。

もの 物作りをするときに気をつけよう

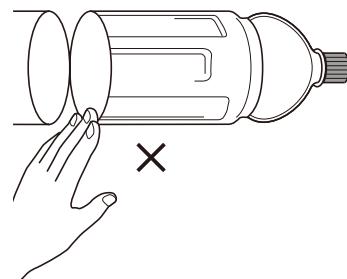
物作りをするとき、ざいりょうやどう具のつかい方で気をつけなければならないことがいろいろある。

1 ペットボトルやパックケースを使うときに気をつけよう。

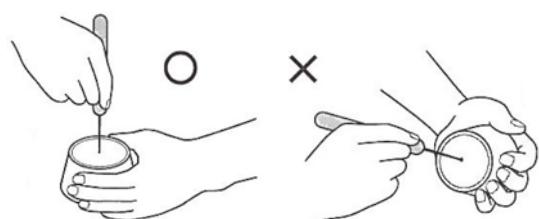
- ・ペットボトルにはあつい湯は入れない。
- ・ペットボトルには、薬品をぜつたいに入れないと。



- ・ペットボトルやパックケースは、あつさがうすいので、切り開いたりしたときは、手を切らないように気をつける。

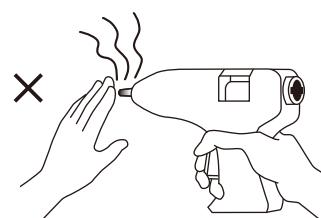
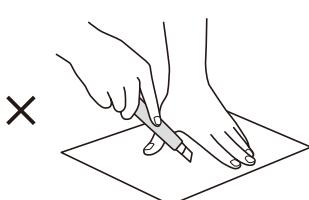


- ・ペットボトルやパックケースに千まい通しをあわせてあなを開けるとき、指をささないように気をつける。
- ・千まい通しは、台の上にこていして使う。
- ・千まい通しは、新聞紙をしくなどしてつくえをきずつけないように気をつける。



2 道具を使うときに気をつけよう。

- ・カッターナイフを使うときは、はの動くほうに手や指をもっていかない。
- ・はさみやカッターナイフをわたすときは、はの先を相手に向けない。
- ・グルーガンの先のぶぶんは、とてもあつくなるのでぜつたいにさわらない。
- ・スティックがとけたせっちゃんくざいは、すぐにさわるとあつくてやけどするおそれがあるので気をつける。



カッターナイフがすべて手を切る。手をおく場所に注意する。